

日本ファンクションポイントユーザ会 活動紹介



日本ファンクションポイントユーザ会 会長
株式会社 NTT データ 技術開発本部 部長

藤貫 美佐

1 はじめに

日本ファンクションポイントユーザ会は「ソフトウェア
定量化の推進を通じてソフトウェア市場の発展に貢献する」
ことをミッションとして活動している。今年で設立 22 年と
なり、FP 法（ファンクションポイント法）を始めとしたソ
フトウェアメトリクスの普及推進に尽力してきた。

今年に入って、その成果を象徴する出来事が起きた。こ
の 4 月から「政府情報システムの整備及び管理に関する標
準ガイドライン」において、原則すべてのシステムでファン
クションポイントを用いた見積りを行うよう規定された
のである。本件の背景には、IPA/SEC（独立行政法人情報処
理推進機構 / ソフトウェア高信頼化センター）様などが発
行するファンクションポイントによるベンチマークの存在
も大きく寄与しており、引き続き連携し市場の発展に貢献
していきたいと考えている。

ソフトウェアメトリクスは非常に重要な分野であり、受
発注の適正化並びに品質・生産性向上のためには、必要不
可欠な要素である。また、見積りや品質・生産性管理にお
いてユーザ企業とベンダ企業が共通認識を持つためには、
同じメトリクスを使う事が重要である。そのために、我々
はソフトウェアメトリクスの計測方法、ソフトウェアメト
リクスの活用方法、業界での普及展開の 3 つを大きな柱と
して活動している。

弊会の会員は約 150 会員であり、うち 9 割が法人会員、
1 割が大学関係者等の個人会員である。法人会員はベンダ
企業だけでなく、ユーザ企業も加入いただいております。研究
会活動などでは異なる立場から意見を交換する場がよく見
られる。このような活動の積み重ねから業界を変革してい
く流れを作っていきたいと考えている。

2 組織の設立経緯と概要

ソフトウェアの規模計測のスタンダードとして FP 法を推

進するため 1986 年に IFPUG（International Function Point
Users Group）が米国に設置された。

本会は日本における FP 法推進の拠点として、1994 年に
IFPUG 日本会員連絡協議会として発足し、1996 年に日本
ファンクションポイントユーザ会（JFPUG。IFPUG の正式
な日本支部）となった。

本会の目的は会員相互の情報交換と親睦を図り、FP 法の
理解やその利用法、更にはソフトウェアの定量化手法の検討
を通し、国内への普及・展開を推進することである。

具体的な活動としては、定例会合にてソフトウェアメト
リクス分野の著名人による講演や会員企業における FP 法
の導入事例、大学や研究機関からの先端的情報、IFPUG や
ISBSG の最新動向の紹介などを行っており、ほかでは得ら
れない貴重な情報が得られる。

また、IFPUG が主催する FP 法のスペシャリストを認定す
る CFPS（Certified Function Point Specialist）試験を実施し
ている。

これらの活動を推進する組織として、表 1 に示す各種作
業部会が設置されており、同じ課題を持つ会員が情報交換
を行いながら課題の解決を目指して活動している。

3 FP 法とソフトウェア開発 のベンチマーク

ファンクションポイントはユーザに提供する入出力など
の機能を定量化した値（機能規模）であり、基本的にはソ
フトウェアの複雑さや品質に対する要件を反映しない値と
して設計されている。

それ故、ファンクションポイントによる生産性のベンチ
マークでは適用技術や業種、プロジェクトの特性による工
数、欠陥数などへの影響が明らかになる点に特徴がある。

プロジェクトの定量的管理及び見積りなどの応用では、
工数、コスト、欠陥数に対する影響を反映するため、日本においてファンクションポイントのベンチマー

表1 JFPUG 作業部会

計測技術委員会 (CPC)	FP 計測ルールの解説・補完 計測上の疑問への回答 (カウンティングクリニック、会員用 Q&A)
教育検討委員会	ファンクションポイント計測コース (基礎編 / 演習編)、メトリクス活用コースの実施、研修資料の作成、指導
CFPS 試験実施委員会	CFPS (IFPUG 認定ファンクションポイントスペシャリスト) の情報交換、CFPS 国内試験開催、試験問題の翻訳
FP 活用研究会	FP 活用の課題の対策や定量データを利用する活動改善のための検討 FP ベースのソフトウェア開発データの収集と結果分析
ビジネス活用研究会	ソフトウェアメトリクスのビジネス活用に関する研究
会員サービス委員会	FP 法及びソフトウェアメトリクス関連技術の普及と活動インフラの整備 機関誌『JFPUG News』の発行と、JFPUG ホームページの企画・運営
国際委員会	FP 法及びソフトウェアメトリクス関連団体との連携・交流、情報交換 国際諸団体 (IFPUG、ISBSG、COSMIC など) の最新動向の情報提供
JIS 原案作成委員会	FP 法及びプロジェクトベンチマーキングに関する JIS (日本工業規格) の原案作成
普及推進委員会	FP 法及びソフトウェアメトリクス関連技術の普及推進
COSMIC 検討作業部会	COSMIC 法の評価・普及 (組込み系、リアルタイム / 制御系) 事例への適用、講習会の実施
CPM 翻訳作業部会	CPM (Counting Practices Manual) をはじめとする IFPUG 出版物の日本語翻訳と JFPUG 会員への提供

クを提供している IPA/SEC、一般財団法人経済調査会、一般社団法人日本情報システム・ユーザ協会の役割は大きく、本会の活動とも密接な関係がある。

4 活動の状況

4.1. 定例会合

JFPUG では、定期的に会員のみが参加できる会合を年 4 回開催している。

会合では、ソフトウェアメトリクス分野の著名人による講演、会員企業による FP 法の導入事例のほか、IFPUG や ISBSG の海外動向など、ソフトウェアメトリクスに関する最新情報の収集ができる。

また、会合後に開催している意見交換会 (立食パーティ) では、講演者や会員相互の意見や情報の交換も可能である。

参考) 2014 年度会合での各種講演

□ 2014 年 4 月総会

- ・「未来を作る新たなテクノロジーと DevOps 最前線」
日本アイ・ビー・エム株式会社 榎原 彰 氏
- ・「ファンクションポイントで要件定義を制す」
株式会社 NTT データ 藤貫 美佐 氏

□ 2014 年 7 月会合

- ・「アジャイルプロセスの見積り
～ 変更分を意識した見積り事例の紹介 ～」
株式会社日立ソリューションズ 英 繁雄 氏
- ・特別座談会
「今求められる「超リスク管理」とは」
株式会社日立製作所 初田 賢司 氏
日本アイ・ビー・エム株式会社 榎原 彰 氏
株式会社日経 BP 池上 俊也 氏

□ 2014 年 10 月会合

10 月会合は、特別イベントとして ISBSG の IT Confidence 2014 と共同開催した。各国からの発表と共に、以下の基調講演を実施。

- ・「エンタープライズソフトウェアの生産性に影響を与える要因の分析について」
東海大学 古山 恒夫 氏
- ・「Why Can't People Estimate: Estimation Bias and Strategic Mis-Estimation」
CEO of Galorath Incorporated D. Galorath

□ 2015 年 1 月会合

- ・「これが日本のトップアーキテクト！
～持つべき五つの心構え～」
株式会社日経 BP 島津 忠承 氏
- ・事例発表「第三者見積チェック」のご紹介
日本ユニシス株式会社 大塚 和隆 氏

4.2. 研究推進活動

JFPUG はソフトウェアの規模計測を推進する団体であるが、計測値は現場及び経営者を支援する指標として活用された時にその真価を発揮する。そのため、規模計測値の活用方法も重要な課題であり、本会では以下に示す 3 つの活動を行っている。

- ・ FP 活用研究会
- ・ ビジネス活用研究会
- ・ 活用推進活動 (会員向け、非会員向け)

① FP 活用研究会

FP 活用の課題に対する解決策を探求し、定量データを利用する様々な活動の改善につなげることを目的としている。検討したノウハウを形式知化し、JFPUG の情報資産とし

て蓄積していくことで活動成果とし、活動成果については、適宜会員と共有するよう推進している。

IT プロジェクトパフォーマンスベンチマーキングのフレームを軸に、総合的品質管理などの組織的FP活用と、見積りや品質管理などのプロジェクトにおけるFP活用の切り口から、課題や原因、対策などを検討している。

ユーザ企業、ベンダ企業の枠を超え、双方の視点の違いの認識や、社内の取り組み、その考え方などを共有しながら、課題解決の糸口を検討している。

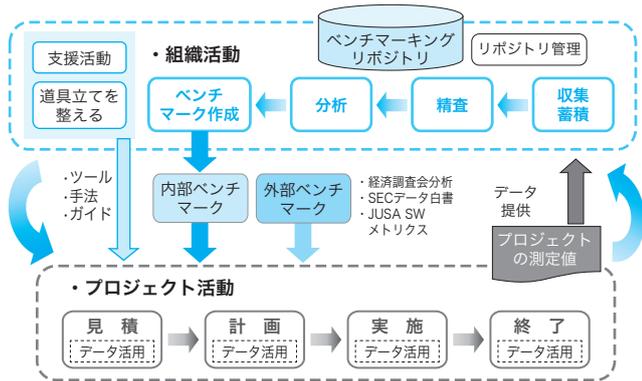


図1 FP活用研究会活動

② ビジネス活用研究会

ソフトウェアの価格評価や受発注の適正化を研究することを目的としている。

大目標を「ソフトウェア開発取引の指標の確立」に置き、以下のステップで活動を進行中である。

- ・ソフトウェア取引の定義と分類
システムの利用分野、委託契約形態、開発タイプといった軸で分類し、それぞれの特性を研究する。
- ・価格指標の策定
上記分類に対応して、価格の決定要因を検討し、有効な価格指標のアイデアを研究する。
- ・データの収集とベンチマーク
上記の分類、価格指標に基づいて、主に会員企業からデータを収集し、ベンチマークを行う。

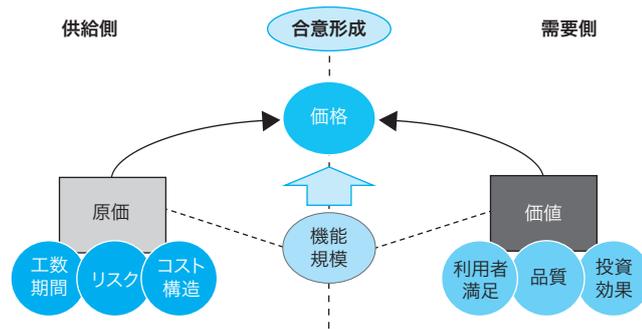


図2 価格相場形成のモデル

価格の決定要因には、発注側の価値と受注側の原価という二つの側面があり、ユーザ企業、ITベンダ、コンサルタント、調査統計会社など幅広く、立場を問わない意見交流を行っている。

③ 活用推進活動（会員向け、非会員向け）

FP活用研究会のメンバを中心に JFPUG 会員や一般の非会員に向けて、以下の活動を行っている。

- ・会員向けオープンワークショップ
- ・IPA との共催イベントの開催
- ・IT コーディネーター協会主催カンファレンスへの出席

研究会メンバ以外の多くの方々と意見交換を行うことで新たな課題やその対策のための取り組み、工夫などを共有している。



図3 ワークショップ活動風景

4.3. 教育・試験

会員へのFP計測法の普及のために1997年にスタートし、以後18年間の間に240回開催、受講者は延べ7,000名（2014年12月時点）となっている。現在のコースは、以下の3種類である。

- ・ファンクションポイント計測コース（基礎編）
ファンクションポイントの成り立ちや概念、計測方法、活用方法などを説明する講義形式のセミナー。
- ・ファンクションポイント計測コース（演習編）
計測方法をより深く理解するため、仮想システムの事例を元に計測の演習を行う。
- ・メトリクス活用コース
ソフトウェアメトリクス活用の方法論や事例を元にしたケーススタディなど、講師が実体験を交えながら対話的に進める。今年度は「実践アナリティクス」「工数見積におけるFP活用」の2テーマを予定している。

講師陣にはFP計測やメトリクス導入推進における先進的な経験者をそろえており、会員企業の計測担当者が、フェイ

ス・ツー・フェイスで質問ができる場として活用されている。

普及に向けたもう一つの活動は、FP 計測スペシャリスト試験（CFPS）の国内開催である。

CFPS（Certified Function Point Specialist）は、FP 法の推進母体である IFPUG が認定する国際資格であり、合格には3時間150問に対し、各章9割以上の正答という計測精度が要求される。かつ3年毎に更新が必要であり、これを維持する者の計測技術の高さを裏付ける。JFPUG は、2001年度から日本語によるCFPS試験を12回開催し、延べ73名の合格者を輩出している。

公的機関でのFP活用が進む中、今後注目される資格である。

また、CFPSを中心として、ファンクションポイントの計測を正しく行うための活動も行われている。具体的には様々な局面においてファンクションポイントの適用指針をまと



図4 教育研修風景

めたガイドラインや、会員の直面している疑問や悩みに答える場の提供を行っている。

5 おわりに

JFPUG のミッションにある通り、ソフトウェア市場の発展に貢献すべく様々な活動を行ってきたが、まだ道半ばであると感じている。

その一つが業界への情報発信が不十分なことである。そのため、今まで会員内に閉じていた情報発信の幅を広げ、非会員向けのオープンセミナーなどを開催し多くの方に活動内容を知ってもらう機会を設けることにした。また、今までは首都圏を中心とした活動であったが、今後は地方における普及推進活動にも注力していきたい。興味のある方は是非参加いただきたい。

加えて強化していきたいのが受発注の適正化に向けた相場観の醸成である。システムが提供する機能を定量化するFP法をベースに価格の相場観が形成されれば、流した汗ではなく、価値で価格を判断することが可能となる。そしてこのことは業界の発展のためには必要不可欠な事項だと考えている。

価値のある成果を会員の方々と作り上げていきたいと考えているので、是非皆さんにも参画していただきたい。

年会費 法人会員3万円、個人会員1万円
<http://www.jFPug.gr.jp/app-def/S-102/wp/>

ファンクションポイントとは？

ファンクションポイントとは、ソフトウェアの機能規模尺度である。

あらゆる製品や資源には、その大きさを表す単位があり、取引のおおよその指標となっている。土地や建物であれば坪数、自動車なら排気量、テレビなら画面サイズといった単位があり、その規模に応じて価格相場が形成されている。

ところがソフトウェアについては、その非可視性から規模の捉え方が難しく、人月やソースコード行数といった単位が指標として使われてきた。

人月は受託した業務に要するリソースの量であり、成果物の大きさを表すものではない。いわば発注元に対して必要経費を請求するようなものである。ソースコード行数は、ソフトウェア開発技術が高度化し、フレームワークなどが普及した結果、昨今では測定自体が困難となっている。

その点、ファンクションポイントは、ソフトウェアで扱う①情報や、画面や帳票を通じた②情報の出し入れを解析し、ルールに基づいて計測するため、技術要素に左右されない客観的な数値を得ることができる。また多少の訓練を積み、専門家ではない利用者でも計測が可能である。

また、こうした尺度については、メートル法のように世の中に広く普及し、認知されていることが重要である。

FP法は米国のIFPUGを中心に世界各国の支部や関連団体が推進し、国際標準化機構（ISO）の規格ともなっている。現在のところ、最も普及したソフトウェア規模指標であると言える。

我が国においてもFP法の知名度は高いが、実際には、見積時の参考値や、生産性や品質などの社内指標として使われる例が多い。

しかし、先般、公共入札時の提示要件のひとつとして推奨されるなど、これからは取引指標としての普及も期待される場所である。

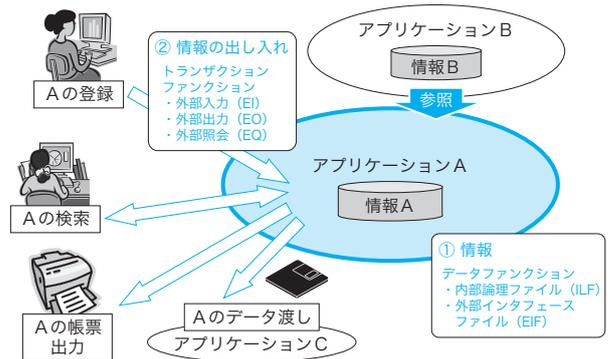


図5 ファンクションポイントの計測方法